

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第7号

令和4年10月19日(水)

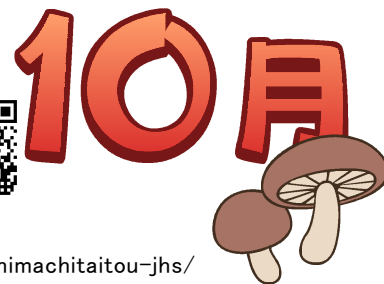
校長 福沢 俊之

Tel. 03(3831)3787



学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/okachimachitaitou-jhs/>



↑更新中



「中学生と区長との語る会」を参観して

校長 福沢俊之

16日(日)に台東区役所で、「中学生と区長との語る会」が行われました。この会は、台東区立中学校の生徒と区長さんが直接お会いし、区への意見や提案をお話しできる機会として毎年開催されてきました。しかし、コロナ禍で2年間実施できず、今年度は3年ぶりの開催です。各中学校から2名ずつ選ばれた14名の中学生が服部区長と輪を作り、「こんな台東区になってほしい！私が考える『未来の台東区』」をテーマに一人ずつ意見や提案を発表し、それぞれに服部区長が丁寧に答えてくださる形で進められました。本校からは3年生の〇〇さん、同じく〇〇さんが参加してくれました。

学校は違っていても、さすが台東区の中学生です。自分たちが暮らしている町のよさをよくわかっていると思える意見や提案ばかりでした。「伝統あるお祭り」「下町情緒」「文化・歴史」など、次世代にどうつないでいくか、という大切な視点をしっかり持っていました。具体策につながるアイデアとして、国内の人たちだけでなく、海外の人たちにも PR して、「国際交流の盛んな台東区にする。」「言葉の壁を取り除くためにも、台東区全体で英語力の向上に取り組む。」「安心して何度も訪れてもらうために、環境美化や治安の安定に力を入れる。」といった提案もありました。また、生活をしている区民が暮らしやすいことが大切であるという考えから、SDGs11の「住み続けられるまちづくりを」「若い人と高齢の方が関わるイベント企画を」「誰もが平等に教育の場が設けられる台東区に」など、人のつながりやかかわり、子どもの教育にも視点が広がりました。さらに「台東区独自の仮想通貨を流通させる」といった斬新なアイデアもあり、楽しく明るい気持ちで聞かせてもらうことができました。

中学生からの提案にも「国際交流」がありましたが、私たちとは異なる文化を理解することは、現代社会においてとても大切なことです。そのためにはまずは自国の文化を知ることである、と言われます。では、自国の文化への理解を深めるには…。台東区にはみなさんの日常生活のある身近なところに、世界遺産を含めて海外に誇れる文化財や文化的施設などがたくさんあります。その台東区を自身が知り、その魅力を語る事が出来るようにすること。そのためには、日常生活を送るだけではなく、自分から知ろうとしたり積極的に地域の行事に参加し地域の方々と関わったりすることが大切なのではないだろうか、と感じた90分でした。

裏面に二人から参加しての感想をいただきましたのでご覧ください。

「中学生と区長との語る会」

(3-2)

今回、区長と語る会に参加させていただき、二十年後、どのような台東区になってほしいかを考えました。そして、その考えを交換する中で、改めて台東区の魅力に気付くことができました。

突然ですが、みなさんは将来どのような台東区になってほしいですか。今回の会で出た意見では、台東区の伝統や歴史を受け継いでいってほしいというものや、緑を守ってほしい、治安や安全が守られた街に、というものがありました。私も同じような考えをもったとともに、観光スポットや商店街、「めぐりん」等で使える区独自の仮想通貨をつくり、観光や生活で取り入れることで、もっと活気あふれる街になってほしいと思いました。

新型コロナウイルスの影響で交流が減ってしまいましたが、この区の魅力は、世界中の人々が交流でき、人々がつながっていることだと思います。みなさんもそのつながりの一員です。今回の会のように、一人一人がこの区の未来について考えをもつとともに、挨拶を大切に、交流を続けることで、この街は、活気あふれる魅力的な街になっていくのではないのでしょうか。

(3-2)

先日、台東区役所で御台含む十四人の生徒と区長の服部さんと将来の台東区について話し合う機会がありました。私の意見は、「台東区の歴史あるお祭りを次世代に日本の方、海外の方、多くの方に知ってほしい」です。台東区のホームページにはすでに海外向けの方に紹介ビデオがあるそうです。コロナ禍が明けたらもっとたくさんの人に楽しんでもらいたいと思いました。

他にも、子育てをより良くする、ゴミを減らす、ポイントをためるなど多くの意見がありました。店で翻訳機をつけて観光客の手助けをするというのが一番印象に残りました。台東区には観光名所がたくさんあるのであったら多くの人助かるなと思いました。

今日の話し合いを経て、台東区についていろんなことを学べて振り返られたと思います。よい経験になりました。

創立20周年記念 折り鶴のモニュメント 完成

創立 20 周年の記念になる作品を作ろう。ただし、生徒全員が参加した、といえるものを…、という課題からたどり着いたのが、先日完成した折り鶴のモニュメントでした。学校で、自宅で、霧ヶ峰学園で、全校生徒のみなさんの協力があって、そして保護者や地域の方々の支援もあって、およそ2万羽の折り鶴から文化交流部のみなさんに組み上げてもらい、素晴らしいオブジェが出来ました。図柄は、20周年記念のロゴを真ん中に、左右には羽ばたいている5羽の鳩。平和の象徴として折り鶴と合わせて20周年を迎えた今の世界情勢へのメッセージでもあります。17日(月)に正面玄関、昇降口右の壁面に掲額しました。学校、地域が一体となって創ったオブジェが、本校の1つの象徴として末永く残っていくことを祈念しています。ご協力いただいたすべてのみなさんに、改めて感謝申し上げます。

